

研究ノート

幼稚園教育実習 I 実習指導の取り組みについて

櫻井京子・二宮貴之・井上聖子¹

(西九州大学子ども学部子ども学科、西九州大学子ども学部子ども学科非常勤講師¹)

(平成27年1月13日受理)

Initiatives of Kindergarten Teaching Practice I Practical Training

Kyoko SAKURAI and Takayuki NINOMIYA and Satoko INOUE¹

(*Department of Children's Studies, Faculty of Children's Studies, Nishikyushu University*)

(Accepted January 13, 2015)

Abstract

A questionnaire focused on the advance training of Kindergarten Teaching Practice I was conducted and revealed that, while students' self-evaluation was extremely high in regards to their qualities as childcare workers, students uncertain of their nurturing skills recognized themselves they had insufficient study and experienced discomfort in regards to participation in training. This study also revealed that, regarding attitude to practical training, there is a need to revise lifestyle.

Key words : Kindergarten Teaching Practical Training 幼稚園教育実習
Self-evaluation Analysis 自己評価分析
Advance training 事前指導
Teaching Plan 指導計画

1. はじめに

本学子ども学部子ども学科において「幼稚園教諭一種免許状」を取得するためには、2年次から3年次にかけて行われる「幼稚園教育実習指導」を受講するとともに、2年次後期に附属幼稚園において「幼稚園教育実習Ⅰ」2週間、3年次後期に外部幼稚園において「幼稚園教育実習Ⅱ」2週間、計4週間の幼稚園教育実習を行う必要がある。特に「幼稚園教育実習Ⅰ」は、学生が入学して初めて本格的に行う実習であり、以後の実習や学生生活に非常に大きな影響を与えることになり重要な役割を果たしている。また、附属幼稚園における実習であるため、事前指導・実習期間・事後指導の全期間を通じて実習園の協力を得ることができ、先生方とも密に連携を図ることが可能である。このような環境のもと、一人ひとりの学生が実習に対して抱く不安や自分自身の課題・改善点などを解決し、しっかりとした目的意識をもって実習に臨むために、養成校における実習指導はどのようにあるべきなのだろうか。

現在、実習指導はABC3名の教員で運営している。指導の際にはそれぞれの専門性が異なるため、その特徴を実習指導で発揮できるように工夫して進めている。A教員は実習指導の中心的な役割を果たし、指導教員同士が指導内容を共有し協働できるよう指針を作成した上で実習指導の全体的なコーディネートを担当している。B教員は音楽の専門性を生かして「音楽による保育」の事例の考案や指導計画案の例示、保育の実演を行うことにより、学生が体験的に学習できるよう援助している。C教員は附属幼稚園の教諭であったことから、大学と園の架け橋として子どもの現状、園の教育方針や先生方の保育に対する姿勢を伝え、指導計画案作成等をサポートしている。

本研究では、まず事前指導として実際に行った取り組みや具体的な指導内容を改めて時系列にまとめている。さらに、学生に対して実習前に実施した取り組みに関するアンケートによって、その意識や姿勢の現状と課題について得られた結果を分析している。これらをもとにして事前指導のあり方や課題について検討し、より実践に役立つ実習指導を行うための礎にすることを目的とする。

2. 実習の概要

(1) 幼稚園教育実習Ⅰの目的（「本学幼稚園教育実習の手引き」より抜粋）

- ①幼稚園教育の実際に触れ、観察・参加・部分実習等の機会を通じて幼児理解を深める。
- ②実習生としての自覚を持ち、教師となる意欲を高め、今後の学習への課題を明確にする。

このように幼稚園教育実習Ⅰにおいては、まずは実際に子どもとかわりながら子どもの姿や保育に対する正しい理解を深めるとともに、実習中に経験したさまざまな内容について自分自身の課題を発見し、改善を試みることで今後の実習や学習に活かしていくことを目的としている。

(2) 実習園

附属S幼稚園（佐賀県佐賀市）

- ・3歳児4組
- ・4歳児4組
- ・5歳児4組 計12組

(3) 対象学生

子ども学部子ども学科2年生77名

- ・aクラス40名
- ・bクラス37名

(4) 実習期間と園における配属組

- ・平成26年10月2日（木）～10月16日（木）
aクラス
- ・平成26年11月18日（火）～12月2日（火）
bクラス
- abクラスとも3．4．5歳児合計12組それぞれに学生3～4名配属

3. 実習指導の具体的内容

(1) 授業計画

表1は、子ども学部子ども学科の平成26年度「幼稚園教育実習Ⅰ事前指導」授業計画である。以下にその概要を示す。なお、文中①～⑰は授業の回を表している。

- ①
・1年次（前年度）S幼稚園見学・観察実習（それぞれ半日）
平成26年2月6日（木）aクラス
平成26年2月7日（金）bクラス

表1 平成26年度「幼稚園教育実習Ⅰ事前指導」授業計画

回	月日	授 業 計 画	備 考
①	2.6 2.7	・S幼稚園見学・観察実習 子どもの生活の姿や保育者のかかわりを知る	・レポート提出 感想・子どもとのかかわりにおいて学んだこと など
②	4.11	・オリエンテーション 実習の意義、目的、留意点、今後の実習について 実習指導の受講について	
③	4.18	・実習に関する手続き 実習園選定、依頼、調書、内諾書等の文書記入の仕方	
④	4.25	・S幼稚園見学・観察実習を振り返って ・S幼稚園の観察記録をとってみよう 幼稚園の1日の流れ、子どもの生活の姿、保育者の関わり、役割	・S幼稚園の生活の流れ（ビデオ・写真・参考資料） ・観察記録作成・提出
⑤	5.9	・実習日誌の書き方① ・幼児理解と観察記録（自分の記録の見直し）	・記録見直し・書き直し・再提出
⑥	5.16	・実習日誌の書き方② ・観察記録の実際	・記録の検証 S幼稚園実際の観察記録参考
⑦	5.23	・実習配属組の決定 ・幼稚園実習Ⅰの実習内容について S幼稚園の教育課程と年間計画、モンテッソーリの保育	・S幼稚園教育課程・年間計画 ・モンテッソーリ教育について学習
⑧	5.30	・教材研究 3・4・5歳児の発達の特徴と保育のポイント	・各年齢別資料に基づき学習
⑨	6.6	・指導計画立案について（以下の3本） A 降園時等における部分実習（絵本・紙芝居等） B 責任実習にむけての事前実習 C 責任実習	・配属組メンバーで内容等調整後 指導計画立案へ
⑩	6.13	・教員による模擬保育 ・指導計画立案①	
⑪	6.20	・指導計画立案②	
⑫	6.27	・教員による模擬保育 ・指導計画立案③	
⑬	7.4	・指導計画立案④	
⑭	7.11	・指導計画立案⑤	
⑮	7.18	・指導計画最終確認	
⑯	7.25	・オリエンテーション（大学にて） （S幼稚園副園長先生・主任の先生より） 16:30～ 園でのオリエンテーション（組毎）指導計画持参	・園でのオリエンテーション時、指導計画を持参し指導を受ける（各自8月上旬までに最終提出完了）
⑰	9.26	・幼稚園教育実習Ⅰ実習直前指導 ・実習についての心構えと諸注意 ・お礼状について など最終確認	
実習期間		<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">幼稚園教育実習Ⅰ（S幼稚園）</div> aクラス 10.2（木）～10.16（木） bクラス 11.18（火）～12.2（火）	

②～③

- ・実習に関する基本的事項および姿勢について
- ・実習の意義、目的、留意点、手続き など

④～⑥

- ・幼児理解と記録
記録をとる目的や必要性については、1年次（前年



図1 S幼稚園の1日の流れと子どもの姿(一部分)

度)に他教科においてすでに学習し、一般の幼稚園における3歳児、4歳児、5歳児のビデオを観ながら記録をとる経験をしている。

そこでこの期間は、実際に実習を行うS幼稚園の子どもや保育者の姿、環境などについて、現場で事前に教員が撮影した写真や動画をパワーポイントで示し、それを観ながら記録をとらせることを試みた。(図1)すでに学生は2月に見学・観察実習を行っているので、記録をとる際イメージしやすかったと思われる。また、観察記録の回収後は教員によって添削を加えた上で返却し、書き直して再提出という流れでワークを数回実施した。図2は、実際に学生が作成したS幼稚園1日の流れの記録である。

⑦

- ・実習配属組の決定
- ・S幼稚園の教育方針や特色についての理解を深める

幼稚園から事前に取得した実際の教育課程・年間計画・昨年度の週案などを学生に提示した上で重要なポイントや詳細について説明し、実習園に関する事前学習を行った。また特色であるモンテッソーリ教育については、子どもの見方・捉え方・お仕事・教具などの概要や、S幼稚園では実際にどのように展開されているのかについて資料をもとに説明を行うことで理解を深めることができた。

⑧～⑮

- ・配属組についての教材研究と指導計画(1人ABC 3本)作成
指導計画A：降園時等における部分実習(絵本・紙芝居等)10分程度
指導計画B：責任実習にむけての事前実習20分程度
指導計画C：責任実習30分から40分程度
責任実習一覧については、表2に示す。

- ・教員による指導計画見本の提示と模擬保育

自分が配属される予定の組について、時期・子どもの年齢・状況・発達段階などを考慮して、配布資料や書籍などを参考にしながら実際の指導計画を立案した。(図3)その際、同じ組に複数の実習生が配属されているので、内容等が重ならないように事前調整を行った上で進めた。また学生によって理解度や進捗状況が異なるため、それぞれに応じて、提出→(添削)→書き直し→再提出を行い段階的に完成させた。図4は学生が実際に立案した3歳児の指

時間	環境の構成	子どもの活動	保育者の援助・留意点
8:30	<ul style="list-style-type: none"> ・袋やカーテンをあげる。 ・シールや紙入れの籠に着せがましい行儀、おぼろげなカードを見る。 ・虫かき、虫かき、春の園遊、菜の花の入れの袋を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊園する。 ・挨拶をする。 ・クラスに行き、身交度をする。 ・園庭で自由に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の掃除、園庭の安全チェックを行う。 ・保護者と子どもに笑顔で明らかな挨拶を行い、一人一人の名前で話しかける。また、子どもの目線に膝を下ろし、握手をし、子どもの顔色や表情からびと体の健康状態をみる。保護者からも子どもの様子を聞いたりして保護者とのコミュニケーションを大切にする。 ・連絡帳記入丁寧を確認し、子どもの体調や保護者の心配事をメモして把握する。 ・子どもの発言に共感したり、おんねたりし、子どもの思いをしっかりと受け止める。 ・部屋の中で友達と遊ぶは一人ひとりで遊ぶ分と、一緒に遊ぶ友達となり、みんな遊ぶがことの楽しさを伝える。 ・子どもたちのコミュニケーション、楽しさを促しているか、自分を表現できているか、どんなことが得意になったかを一人一人しっかりと観察し、子どもが今を理解し把握する。
10:00	<ul style="list-style-type: none"> ・画用紙など遊び道具を使いやすいようにワゴンに整理する。 ・おたがけの音楽を流す。 ・子どもたちが歌を聴いてきた後は整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内で自由に遊ぶ。 ・片付けを行い、服が汚れた子は着替える。 ・トイレ、手洗いをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安全に遊べるよう、クラスの子の活動をしつかり注意しながら見る。 ・子どもの日記がある場合はおんなじ紙も比較し、促める。 ・片付けをしない子は、しばらくは見守るが、自分自身で気付くことができない場合は、その子と向き合い、話を促す。
反省・感想・考察など	<p>今回初めて実習の記録を模擬体験的ですが、自分で書いてみて書くペースが足りないと感じました。この紙をもらった時はこんなにかきついで?と、思いましたが、ちゃんと子どもたちの表情や留意点を日頃からもずっと考えていたら、せよ先生は、書くことが足りなかったらと思うかもしれません。子どもたちのために、これだけ時間をかけた丁寧に向き合っている仕事なのだという事をこの記録一紙から、改めて実感する事ができました。今回、私には記録ではなく記録のこの記録用紙に書き直しましたが、実際は自分の記憶が頼りになるので少し不安です。でも、自分たちが書く練習をさせてもらい、少しづつですが、どんな事をこの欄に書いたら良いのか分かるようになってきました。それと同時に、こんな場面では保育者はどう対応したら良いのかなど等が、自分で考えて本当に自分のためになっていると思えました。</p>		

図2 S幼稚園の1日の流れの記録

表2 責任実習一覧

責任実習											
10/10 (金)			10/14 (火)			10/15 (水)			10/16 (木)		
学生氏名	内容	場所	学生氏名	内容	場所	学生氏名	内容	場所	学生氏名	内容	場所
A	どんぐりマラカスを 使って歌を歌う	保育室	B	おおかみさん いま何時!?	ホール	C	画用紙に折り紙を 貼ったり絵を描く	保育室			
A	まつぼっくりの おきものを作る	保育室	B	ぶどうの実を作る	保育室	C	木の絵を描いた 画用紙にもみじ型の 折紙を貼る	保育室			
A	作ったヨーヨーに 飾りをして ヨーヨー遊びをする	保育室	B	「ふうせんリレー」 をする	ホール	C	カード作り (画用紙に貼る)	保育室			
A	柿の実づくり	保育室	B	やきいもづくり (新聞紙)	保育室	C	けん玉づくり	保育室			
A	ハサミの使って どんぐり、いちよう 切る	保育室	B	さかな釣りを する 釣竿つくる	保育室	C	きのこのうたダンス	ホール	D	「秋のファッション ショー」をする	保育室
A	みのみしの ちぎり絵をつくる	保育室	B	作ったしっぽで しっぽとりをする	運動場	C	フルーツバスケット をする	保育室			
A	釣竿を作って 魚釣りゲームをして 遊ぶ	保育室	B	紙コップロケット 作り・遊び	保育室	C	歌を歌っておどる イス取りゲーム	保育室			
A	ひっかき絵を楽しむ	保育室	B	きのこの家を 完成させる	保育室	C	製作 (トントンずもう)	保育室	D	手遊び「まほうの杖」 自作ペーパーサートに おり混ぜる	保育室
A	動物ごとのチームに 分かれての しっぽ取りゲーム	運動場	B	行事に関連した 折紙お絵描き遊び	保育室	C	どんぐりめいろを 作る	保育室	D	とんぼめかぬを 作る	保育室
A	手遊び 紙コップロケットで 遊ぶ	保育室	B	お面の色ぬり、 ハロウィンに関する 〇×ゲーム	保育室	C	作った折紙を使って 画用紙に秋を表現	保育室			
A	晴天時：ドッジボー ル 雨天時：おいも作り	運動場 保育室	B	おひげの帽子作り	保育室	C	画用紙でつくる “どんぐり”の ペンダント	保育室	D	音楽に合わせた リズムあそび	保育室
A	どんぐりトロ	保育室	B	ハロウィングッズを 作る	保育室	C	布を使った おイモ運びリレー	ホール			

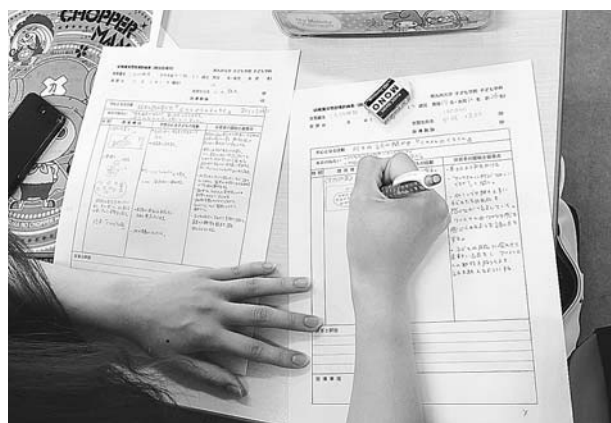


図3 指導計画立案の様子

導計画である。

⑩ S 幼稚園によるオリエンテーション (全体・実習組ごと)

- ・大学における全体オリエンテーション (副園長先生・主任)
- ・S 幼稚園における組ごとオリエンテーション (各

組担任)

指導計画案提出→(指導)→書き直し→期限(8月上旬)までに清書し再提出する

実習園と協力して学生指導が行えるよう、大学における全体オリエンテーション、幼稚園におけるオリエンテーションともに教員も同席して受講した。特に指導計画については、指導者が大学教員から現場において日々子ども達とかかわる幼稚園各組の指導保育者に移行していくため、この段階では子どもの姿に照らしてさまざまな具体的な指導が行われ、さらなる書き直しを求められる。その点においては、実習指導を行う養成校の教員は常日頃から保育現場と密に連携を図り、子どもの姿に触れ、可能な限り保育現場の保育者に近い立場で指導を行う必要があるだろう。

⑪ 幼稚園教育実習 I 実習直前指導

- ・実習についての心構えと諸注意、提出物等
- ・実習後のお礼状等

中心となる活動 花紙を丸めて、ぶどうを作る。				
本日のねらい ○1つの作品を仕上げ、楽しむ。 ○花紙を丸める時の音や感触を体験し、楽しむ。				
時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者の援助と留意点	
10:10	<p>事前準備として、(こ)の粘土の土に、使うものを水で、子どもたちが手に置いておく。</p> <p>※花紙は、4枚、前2枚、ぶどうの台紙、茶色画用紙、前日、作った茶色の紙を、裏に名前を記入</p> <p>●完成した作品を見せ合う</p>	<p>●保育者の呼びかけで、白線の中に集まり、座る。</p> <p>●子どもが「ひげいけん」を、保育者を見せながらする。</p> <p>●前日、茶色紙で作ったぶどうを出す。</p> <p>●ぶどうの完成品を台紙に見せながら、保育者の話を聞く。</p> <p>●ぶどうの作り方を聞く。</p>	<p>●白線の中に集まり、前を向いて座るように声を掛ける。</p> <p>●子どもが白線の中に集まり、座ったことを確認する。</p> <p>●子どもが「ひげいけん」をして、保育者に注目し、注目して活動に入るように促す。</p> <p>●事前に準備した完成品に比べて、茶色紙を貼る、前日の活動を確認する。</p> <p>●今日は、このぶどうの音や感触をしようとして、完成品や自分の見せながら、子どもたちが活動に入るように声を掛ける。</p> <p>●作り方を、実際に子どもたちの前でやってみせながら、分かってもらう。</p>	<p>●白線の中に集まり、座る。</p> <p>●保育者の話を聞き、関心を持って活動する。</p> <p>●子どもが活動を見て回り、活動を楽しむように声を掛ける。</p> <p>●子どもたちが、自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入るように促す。</p>
10:15	<p>※花紙を丸めて、ぶどうの台紙に貼る。</p> <p>●完成品(大ぶどう)</p> <p>※完成品と、花紙を貼った前の台紙を比較して見せ合う。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p> <p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>
10:18	<p>●完成品と、花紙を貼った前の台紙を比較して見せ合う。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>

図4 3歳児責任実習指導計画

(2) 指導計画立案に向けた取り組みの実際と課題

指導計画立案については実習指導の中でも求められる大きな柱となっている。これまでの生活の中で子どもとかかわる経験がほとんどない状態で入学し、まだ実際の保育現場での保育を経験していない学生にとっては、頭の中でイメージすることによって子どもの活動を予想しながら指導計画をたてることは非常に難しい。そこで立案の過程ではまず、教員による指導計画見本の提示や模擬保育を行い、まずは学生達が子どもの立場で模擬保育に参加することから始めた。

実際に教員が行った『雨の日のおはなし』では、ペープサートを観て子どもの気持ちになって楽しむことができるような仕掛けの工夫や話の進め方、言葉かけなどを体験できるように試みた。(図5) その上で、指導計画をたてるポイントを加えた資料や指導計画の見本を配布することによって、子どもの活動の流れを考慮し導入・展開・まとめの流れを作り、道具の使い方を含めた環境の設定ができるよう段階的に進めた。

しかし学生間にも大きな個人差があり、興味や関

時間	環境構成	予想される子どもの活動	保育者の援助と留意点	
10:25	<p>●花紙を丸めて、ぶどうの台紙に貼る。</p> <p>●完成品(大ぶどう)</p>	<p>●保育者の呼びかけで、白線の中に集まり、座る。</p> <p>●子どもが「ひげいけん」を、保育者を見せながらする。</p> <p>●前日、茶色紙で作ったぶどうを出す。</p> <p>●ぶどうの完成品を台紙に見せながら、保育者の話を聞く。</p> <p>●ぶどうの作り方を聞く。</p>	<p>●白線の中に集まり、前を向いて座るように声を掛ける。</p> <p>●子どもが白線の中に集まり、座ったことを確認する。</p> <p>●子どもが「ひげいけん」をして、保育者に注目し、注目して活動に入るように促す。</p> <p>●事前に準備した完成品に比べて、茶色紙を貼る、前日の活動を確認する。</p> <p>●今日は、このぶどうの音や感触をしようとして、完成品や自分の見せながら、子どもたちが活動に入るように声を掛ける。</p> <p>●作り方を、実際に子どもたちの前でやってみせながら、分かってもらう。</p>	<p>●白線の中に集まり、座る。</p> <p>●保育者の話を聞き、関心を持って活動する。</p> <p>●子どもが活動を見て回り、活動を楽しむように声を掛ける。</p> <p>●子どもたちが、自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入るように促す。</p>
10:30	<p>●完成品と、花紙を貼った前の台紙を比較して見せ合う。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>
10:35	<p>●完成品と、花紙を貼った前の台紙を比較して見せ合う。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>	<p>●子どもが自分の作品を、保育者に見せながら、活動に入る。</p>
反省と評価				
指導事項				

心の対象もさまざまである。書くことが得意で企画力に優れた学生はあまり負担感もなく、ねらいの大切さにも気づき環境構成や子どもの活動も詳細に記すことができた。その一方でどこに何を書くかが整理できず、添削をして返却しても修正がなされずなかなか成長が見られない学生もいた。

指導計画立案において学生の抱える問題点は、まず担当年齢の子どもの発達段階や興味・関心の対象、つまり子どもの実態がつかめないという点にある。

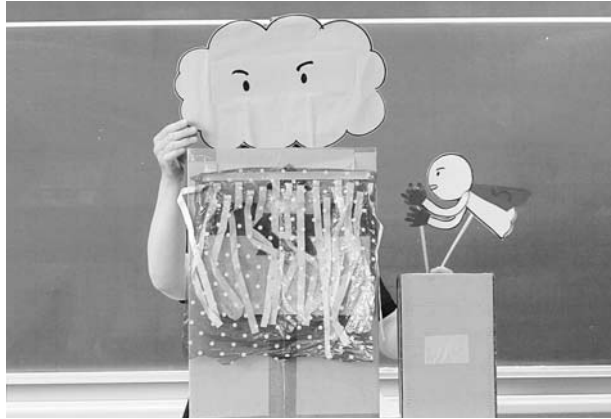


図5 教員模擬保育『雨の日のおはなし』

このことに起因して、実際には以下のような学生が散見された。

- ①子どもの実態から発達課題やねらいが見えず、活動の流れが見通せない
- ②子どもにとって今どんなことが楽しいのか、アイコンタクトがない
- ③活動内容が設定できない
- ④状況に応じた柔軟な対応ができず、活動内容の変更に抵抗を感じる 等

それでは、学生自身がこのような問題点や課題を克服するためにはどうすればよいだろうか。具体的には以下のようなことが挙げられるであろう。

- ①日頃から保育に関することに興味をもつ
- ②保育雑誌に目を通したり、わからないことは専門の教員に相談する
- ③子どもの好きな歌や遊び、季節の自然物や行事などに興味をもって調べる
- ④園で楽しまれている歌や手遊びなどを習得する 等

結局は自分で時間を作り、足を運び、学んでいこうとする姿勢が重要であると考えられる。しかし、最近では残念ながら「調べる」ということも手元の携帯電話を使用することで済ませるなど、安易な方法で行う学生が増えていることもまた事実である。書く力や構成する力は一朝一夕に成り立つものではない。学生自身が将来をしっかりと見据え、実習を

大事な関門として捉えて懸命に取り組む意識の高さが求められる。また私達実習指導担当教員も、学生に対して日常の学生生活の中で気づきを促すことができるようなさまざまな刺激を与える努力をしなければならない。

4. 幼稚園教育実習 I 事前アンケート調査の結果と分析

平成26年9月、幼稚園教育実習 I 事前指導の授業内において、学生に以下の項目内容のアンケートを実施した。調査内容については表3に示す。学生は幼稚園教育実習 I に入る前に下記項目について ABCD の4段階の自己評価を行っている。その結果については、A（良くできる）＝4点、B（概ね出来る）＝3点、C（もっと頑張る必要がある）＝2点、D（出来ない）＝1点のように点数化したものを集計データとして掲載している。また、現状と課題の自由記述についても記述内容を精査し、記述を拾い上げて分類し、自己評価を点数化した調査結果と併せた量的・質的の両側面から分析を行っている。

まず上記のアンケートの項目内容を基に、それぞれ点数化した自己評価について結果を分析し考察を行う。

表3 アンケート項目一覧

		自己評価	現状と課題
実習態度	毎日の生活のリズムや体調を崩すことなく実習を終えることができますか。	A B C D	
	教師とのコミュニケーションを自分からとって、信頼関係をもって接することができますか。	A B C D	
	教材の整理整頓、保育室やトイレ等清掃など自分から熱心に迅速にできますか。	A B C D	
	歌や手遊び等の保育技術を身に付けることに意欲的ですか。	A B C D	
保育者としての資質	保育中はいつも言動が心優しく快活であることを心がけられますか。また、子どもに対して感情的な言動はないでしょうか。	A B C D	
	積極的に幼児の生活に溶け込み、個々の子ども達と関わりを深め、行動を理解するように努めますか。	A B C D	
	指示された仕事の遂行に責任をもって取り組み、報告等も確実にできますか。	A B C D	
	誰に対しても挨拶を進んで行い、礼儀や身だしなみ等保育者として常識をわきまえた行動がとれますか。	A B C D	
保育技術	自分の担当したクラスの子どもの発達段階をふまえた援助を心掛けますか。	A B C D	
	保育中個々の幼児や、クラス全体への目配りや援助を心掛けますか。	A B C D	
	保育に必要な保育技術をいくつか身に付けることができますか。	A B C D	
	保育の意味や幼稚園の役割をおおむね理解できますか。	A B C D	

【実習態度について】

①項目概要

「実習態度について」の項目においては、「生活リズム」「コミュニケーション力」「環境整備」「保育技術を身につける意欲」の4項目について質問している。

②自己評価

「実習態度について」の自己評価を A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点と点数化し, 集計している。

図6は, 4項目に分類した実習態度についての集計結果である。環境整備に関する項目は, 4項目中最も高い数値を示し, 4点満点中2.92であり, 2番目は生活リズムに関する項目で4点満点中2.70, 3番目がコミュニケーション力で4点満点中2.58, 4番目が保育技術を身につける意欲で4点満点中2.39であった。最高値の環境整備と最低値の保育技術を身につける意欲との差は, 0.53の得点差が表れていた。このことから, 実習に参加する前の学生たちの多くは, 環境整備について意識が高く, 一方で保育技術を身につける意欲について不安を抱えている傾向があることが数値から見て取れた。

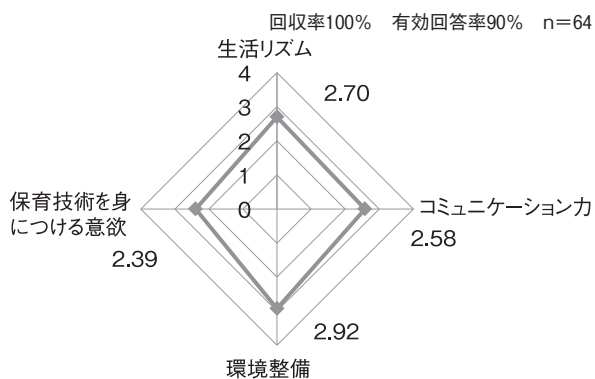


図6 実習態度について

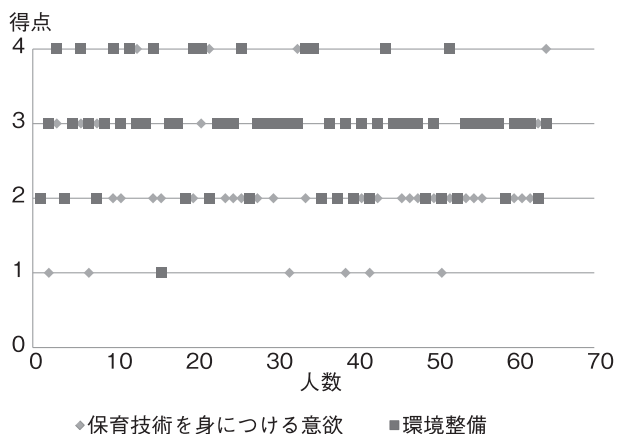


図7 環境整備及び保育技術を身につける意欲の比較

また, 図7は, 環境整備及び保育技術を身につける意欲の各項目についてのデータを集計し, 集計結果の値に開きが見られたため比較できるよう, 散布図として掲載したものである。散布図の中の環境整備については, 回答者が3点に集中しており, 4点と2点が同程度の割合で少数おり, 1点がわずか1名という結果であった。このことから, 多くの学生が実習に出る前に環境整備については概ねできる, または, 良くできると意識していることが言える。また, 散布図の中の保育技術を身につける意欲については, 回答者が2点に集中しており, 4点, 3点, 1点が同程度の割合の大差ない人数で散らばっていることが分かる。つまり, 保育技術を身につける意欲については, 多くの学生がもっと頑張る必要があると感じている傾向を示し, 意識について若干ばらつきがあることが明らかとなった。

③自由記述

「生活リズム」「環境整備」に関する記述では, 「生活のリズムは良い」「清掃は積極的に行いたい」という意見が見られた。その一方, 「コミュニケーション力」に関する記述では, 「初めて会う人とのコミュニケーションが苦手である」という意見が見られた。記述の詳細については, 表4に掲載している。

【保育者としての資質について】

①項目概要

「保育者としての資質について」の項目においては, 「情意面」「積極性」「責任面」「マナー面」の4項目について質問している。

②自己評価

「保育者としての資質について」の自己評価を A = 4点, B = 3点, C = 2点, D = 1点と点数化し集計している。

図8は, 4項目に分類した保育者としての資質に

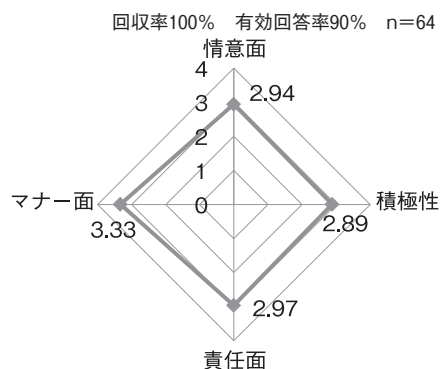


図8 保育者としての資質について

についての集計結果である。調査結果によると、マナー面に関する項目は、4項目中最も高い数値を示し、4点満点中3.33であり、2番目は責任面に関する項目で4点満点中2.97、3番目が情意面についての項目で4点満点中2.94、4番目が積極性についての項目で4点満点中2.89であった。4項目中最高値を示したマナー面に関する数値と最も低い値を示した積極性についての得点差は、0.44であった。いずれの項目も高得点を示しており、学生達は子どもに対する心優しい言動、積極的に子どもと関わる姿勢、誰

にでも気持ち良く挨拶し常識をわきまえた行動をとるなどの保育者として必要不可欠である資質について高い意識を持ち合わせていることが表れていた。特筆すべきは、マナーに関する項目が全項目中最高得点であることである。

③自由記述

「責任面」「マナー面」に関する記述では、「頼まれた事には責任を持って行動する」「礼儀や身だしなみは日々気を付けている」という意見が見られた。その一方、「情意面」「積極性」に関する記述では、

表4 自由記述（実習態度）

生活リズム	
ネガティブ	ポジティブ
・就寝時間がばらばらである。	・生活のリズムは良い。
・寝る時間が不規則。	・今の状態で大丈夫だと思う。
・夏休みのリズムが崩れたので早く寝て実習に備えたい。	・規則正しい生活をしている。
・朝の早起きがなかなか出来ない。	・あまり体調を崩すことはないので大丈夫だと思う。
・生活リズムが朝と夜逆転している。	・毎日健康。
コミュニケーション力	
ネガティブ	ポジティブ
・コミュニケーション力不足。	・先生とは良好な関係が築けている。
・初めて会う人とのコミュニケーションが苦手である。	・自分は得意なので頑張りたい。
・教師とのコミュニケーションは自分からだろうと思うが、実際少し不安がある。	・わからないことはどんどん質問したい。
・自分から話しかけることは少ない。	・ある程度コミュニケーションはとれる。
・笑ってごまかしてしまうので、話せるように心がける。	・基本人とコミュニケーションをとるのは好きなので、後は言葉遣いに気を付けたい。
環境整備	
ネガティブ	ポジティブ
・整理が上手くできていない。	・子どもたちのことを思い行う。
・掃除はさぼりがちなので気を付けたい。	・ある程度自分からきれいにしている。
・整理整頓ができていない。	・整理整頓や清掃は進んでしたい。
・言われたらできる。	・プリント類をファイルにまとめることもろくにできていないので、整理整頓をしっかりしたいと思う。
・自分の身の周りの片づけを怠っていた。	・清掃は積極的に行いたい。
保育技術を身につける意欲	
ネガティブ	ポジティブ
・意欲的でない。	・授業で習ったことは覚えている。
・ピアノが苦手なので積極的に歌うなどのことなどをしていなかった。	・たくさん動画などを見て勉強している。
・ピアノができない。	・手遊びなどが紹介してある絵本を買って、新しい知識を入れる。
・保育技術不足。	・教師をしっかりと観察したい。
・少し恥ずかしがってしまうところがある。	・手遊びを学びたい意欲はある。

「感情的になることがあるので、保育者としての立場を考えて行動する」「どういう接し方をすればいいかわからない」という意見が見られた。記述の詳細については、表5に掲載している。

【保育技術について】

①項目概要

「保育技術について」の項目においては、「発達段階を踏まえた援助」「広い視野と心配り」「保育技術の獲得」「保育の意味や幼稚園の役割理解」の4項目について質問している。

表5 自由記述（保育者としての資質）

情意面	
ネガティブ	ポジティブ
・現状に合わせた言葉遣いが難しい。	・子どもの前ではいつも笑顔で優しく接するよう心掛けている。
・いけないことを注意する方法がわからない。	・相手に話すときは言動に注意している。さらに実習のときは心掛けるようにする。
・方言や言葉がきつい。	・その子の気持ちになって声掛けなどができる。
・言葉がきつくならないように気を付ける。	・どんな状況でも、まず、自分が冷静になって、あわてず子ども達に対応したいと思う。
・感情的になることがあるので、保育者としての立場を考えて行動する。	・子ども目線で優しく話しかけることはできる。
積極性	
ネガティブ	ポジティブ
・どういう接し方をすればいいかわからない。	・子どもを理解するため積極的に子どもに関わっていききたい。
・一部の子どもに偏って関わってしまう。	・行動を理解するように努める。
・まったくわからない状態。	・子ども理解するのは、最も重要な事項なので、力を入れて取り組みたい。
・騒いでいる子や、輪からはみでている子にどう伝えていいかわからない。	・幼児の生活を知る努力をしたい。
・なかなか溶け込むことができていない。	・今の状態で大丈夫だと思う。
責任面	
ネガティブ	ポジティブ
・責任感は強いので大丈夫だと思うが不安。	・何かあった時報告を忘れないよう気を付けたい。
・報告し忘れることがある。	・頼まれた事には責任を持って行動する。
・もっと確認することを考えるようにしないとけない。	・指示されたことは責任もって行う。
・指示されたこと以外は自分から動かない。	・保育実習での反省も見直しながら課題を見つける。
・今からでも常に常識のとれた行動をとる。	・指示される仕事はやり遂げるようにしている。
マナー面	
ネガティブ	ポジティブ
・時々常識がわからない時がある。	・礼儀や身だしなみは日々気を付けている。
・部分部分で礼儀が崩れたりしてしまうので、最初から最後まできちんとしていきたいと思う。	・挨拶は積極的に日頃からしている。
・子どもたちと行動している時にきちんと周りを見れているかが心配。	・礼儀や園のルールは、保育者としてしっかり守る。
・たまに自分の機嫌が顔に出ることがあるので気を付ける。	・挨拶は進んで行うことができています。いつ見られても恥ずかしくない行動をしていきたいと思う。
・もっと当たり前のレベルでできるようになりたい。	・保護者の方や外部の方にもしっかりと挨拶する。

②自己評価

「保育技術について」の自己評価を、A = 4点、B = 3点、C = 2点、D = 1点と点数化し集計している。

図9は、4項目に分類した保育技術についての集計結果である。調査結果によると、保育の意味や幼稚園の役割理解に関する項目は、4項目中最も高い数値を示しており、4点満点中2.48、2番目は広い視野と心配りの項目で4点満点中2.47、3番目が保育技術の獲得に関する項目で4点満点中2.38、4番目が発達段階を踏まえた援助に関する項目で4点満点中2.31という結果であった。全体を概観すると、いずれの数値も突出しておらず、保育技術に関する4項目間の学生の意識については大差が見られなかった。

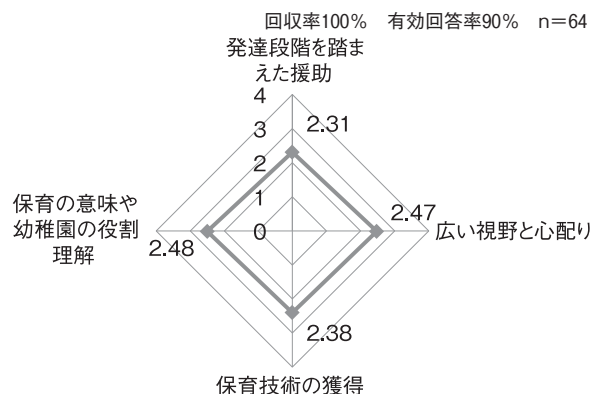


図9 保育技術について

表6 自由記述（保育技術）

発達段階を踏まえた援助	
ネガティブ	ポジティブ
・子どもの発達段階の勉強不足。	・分かり易い言葉遣いなどを心掛けている。
・何ができて何ができないのか、判断がつかない。	・授業で学んだことを少しでも生かして援助していきたい。
・子どもの名前を覚えるのが苦手。	・子ども一人一人の発達段階を理解している。
・年齢に応じた対応が分かっていなくて援助ができていない。	・子どもをしっかり観察する。
・発達段階をまだ予習できていない。	・その子に合った対応を一人一人に行おうと思う。
広い視野と心配り	
ネガティブ	ポジティブ
・援助に対する知識不足。	・全体を見る能力はある。
・常にクラス全体に目を配れるか少し不安がある。	・なるべく一人一人を見るようにしている。
・一部の子どもに集中しすぎてしまう。	・全体を見て日頃行動している。
・クラス全体を見ることがあまりできないと思う。	・視野は広い方だ。
・たくさんの子どもを見るのが苦手。	・全体への目配りの心掛けはできている。
保育技術の獲得	
ネガティブ	ポジティブ
・ほとんど技術がない。	・授業で学んだことを生かしてこれから実践したい。
・子どもへの声掛けや手遊びの技術が不十分。	・必要な保育技術は授業で少し学んでいる。
・まだ未熟。	・先生の行動を観察し、接し方や動きを学ぶ。
・急なトラブルへの対処などが全然できない。	・全てを吸収していく。
・本の読み聞かせがいまいち。	・ボランティアで少し身に付けた。
保育の意味や幼稚園の役割理解	
ネガティブ	ポジティブ
・あまり把握していない。	・自分の行く園の特徴は調査している。
・知らない部分が多い。	・授業で学んだことを生かしてこれから実践したい。
・まだ役割を理解していない。	・ある程度学習している。
・まだあまり理解できていないところが多い。	・座学では、役割をだいたい理解出来た。
・まだあいまいな部分が多い。	・一日の流れと役割をしっかり理解する。

③自由記述

「広い視野と心配り」「保育の意味や幼稚園の役割理解」に関する記述では、「全体を見て日頃行動している」「自分の行く園の特徴は調査している」という意見が見られた。その一方、「発達段階を踏まえた援助」「保育技術の獲得」に関する記述では、「年齢に応じた対応が分かっていなくて援助ができていない」「子どもへの声掛けや手遊びの技術が不十分」などの意見が見られた。詳細については、表6に記載している。

さらに図10は、「実習態度について」「保育者としての資質について」「保育技術について」の3項目を積算した平均値について比較したものである。まず、最も高い数値を示していたのは「保育者としての資質について」の項目であり、他の2項目と比較しても突出して高く、得点は4点満点中3.03であった。今回の調査項目の保育者としての資質（情意面、積極性、責任面、マナー面）における自由記述では、「その子の気持ちになって声掛けなどができる」「子どもを理解するため積極的に子どもに関わっていきたい」「何かあった時報告を忘れないよう気を付けたい」「礼儀や身だしなみは日々気を付けている」などの記述があり、保育者としての高い志が芽生えている学生が多数いることが集計結果から見て取れた。2番目の実習態度については4点満点中2.65を示し、項目内容（生活リズム、コミュニケーション力、環境整備、保育技術を身につける意欲）における自由記述では「規則正しい生活をしている」「自分は得意なので頑張りたい」「子どもたちのことを思い行う」「たくさんの動画などを見て勉強している」などの記述が見られた。その一方で、生活リズムの乱れやコミュニケーション力の欠如についての記述も見られ、4点満点中2.65という得点からして改善の余地が残されている項目であると言え

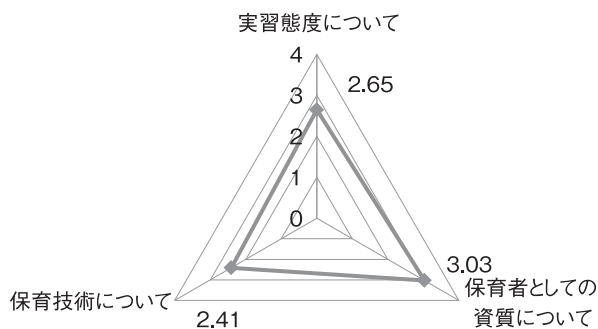


図10 主要3項目の数値比較

る。3番目の保育技術については4点満点中2.41を示し、項目内容（発達段階を踏まえた援助、広い視野と心配り、保育技術の獲得、保育の意味や幼稚園の役割理解）における自由記述では、「授業で学んだことを少しでも生かして援助していきたい」「なるべく一人一人を見るようにしている」「ボランティアで少し身に付けている」「自分の行く園の特徴は調査している」などの肯定的な意見の一方で、全体を見渡す広い視野についての未熟さや保育の役割についての知識不足を感じている調査結果が得られた。

今回の結果では、「保育者としての資質について」は学生の自己評価が非常に高い。その一方で、「保育技術について」の不安を抱えている学生が多数おり、自分の勉強不足を感じての戸惑いが窺える。また、「実習態度について」は日頃の生活習慣が出ており、頭では理解できていても、生活の在り方を今一度見直す必要があることが明らかである。

5. おわりに

大学入学後、初めての幼稚園教育実習に臨む学生にとって、保育者を志す自分が「今、どこにあるのか」は実習前には全くわからない状態であろう。

今回のアンケート調査の結果から、自分は保育者としての資質があると期待して実習を行おうとしている学生が多いことは喜ばしいことである。しかし実際には、実習事前指導の中でも保育記録をとる練習や指導計画立案において、しっかりと見通しを立てて努力できている学生と実習に行けば何とかなると安易に考えている学生の格差が見えてくる。また、アンケートの各項目別の自由記述において、「生活リズムに不安がある」「整理整頓ができない」「常識がわからない」「自分からコミュニケーションがとれない」など、自分自身の日常生活を振り返る中で保育者としての基本的な資質について漠然とした不安や課題をもっている学生も見られた。

初めての実習を附属幼稚園で仲間とともに進めることには、さまざまなプラス面があると考えられる。育った環境や価値観が異なる学生が一つの目標に向かって、お互いに刺激を受け切磋琢磨し励まし合いながら、見習うべき点を吸収することができる。マナーや取り組みの姿勢についても、自分では気づかない点を仲間から客観的に見てもらい指摘を受けることも可能である。今後学外の実習に進んでいく上

で、今回の実習をどのように自分の中に位置づけ、次のステップに進んでいくことができるかが重要である。

本研究においては、幼稚園教育実習前の学生の現状と課題、実習事前指導について検討し考察したが、今後は継続的に実習期間中・実習事後指導の内容についての検討を行う予定である。実習前と実習後で学生の意識がどのように変化したか、実習で何を学んだのか、また学生の自己評価と実習園の評価の相違についての検証を行うことを今後の課題とし、より実践に役立つ実習指導のあり方を模索したい。

参考文献

- 1) 西九州大学子ども学部子ども学科編「幼稚園教育実習・保育実習の手引き」(2011)
- 2) 杉原 徹 小島 一久「短期大学と附属幼稚園との連携」高知学園短期大学紀要 第41号(2010)
- 3) 杉山 喜美恵「実習事前指導あり方について3. 責任実習の現状分析より」東海女子短期大学紀要 第31号(2005)
- 4) 大井 佳子 吉田 若葉「4年制での保育者養成における幼稚園教育実習指導試案(1)一幼稚園現場との協働の模索一」北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要 第5号(2012)
- 5) 岩淵 善美 金子 眞理「幼稚園教育実習における学生の自己評価分析」保育研究 第42号(2014)